

外国人材採用、先駆け20年

鉄塔塗装を手掛ける平世美装（千葉県木更津市、久保田悟代表取締役）。送電工事や関連業界では近年になって外国人材を雇用する動きが目立つようになったが、同社は約20年前からフィリピン人材の採用を行ってきた。現地に学校を設けたり、英語のマニュアルを用意したりと、入念な準備の上に外国人材の活用を進めている。

（林史子）

(林史子)

平世美装は、久保田悟代表が弟の健作専務とともに「裸一貫」で立ち上げた。塗装を家業とする家に生まれ、幼少期から職人の中で育った2人は、ともに塗装職人として車中泊などで支出を切り詰めて資金を貯蓄。1996年に同社を設立するに至った。

英語の資料用意

橋りょうなどの仕事を進めるうちに鉄塔塗装のPGの「工事成績1位」を獲得するなど高

平世美装 フィリピン出身者が活躍



い評価を得ている。まさにラインマンを呼ぶ必要がなく、現場の課題が事故防止の「接地」である人手不足にも対応できるよう講習を受

ける。接地作業のため 健作専務の妻がフイ



リピン人だったことから、親戚や知人などの紹介で雇い入れを増やし、現在は社員の方の1に当たる約40人がフィリピン出身だ。

現地には自前の学校を設け、鉄塔や日本語について一通り教える。絵や写真を多用し、英語の翻訳を付けて丁寧な資料を用意。日本語の難しさにも対応している。

また、全社員を対象とした安全教育では、道具類の使い方に加え、落下物があつた場合にヘルメットがどのような状態になるかなど、実演を通じて分かりやすく伝えている。

トップも現場に

トップも現場に

同社の特徴
は、トップ自
らが鉄塔に昇
るといふ、率
先垂範を見せ

①外国人材を含め、鉄塔塗装の現場で活躍する平世美装

●平世美装の(右から)久保田健作専務、久保田悟代表、久保田大作氏(健作氏の息子)

現地で教育／社員の3分の1に

る点だ。健作専務はこうした取り組みについて「現場の作業員の目線に立ち、足を運ぶことが大事」と話す。恒代表は「現場に行かないと分からないことがある。現場に行くこと」で感覚が養われる」と強調する。

例えば、安価な機械と高価な機械があると経営者としては安価な方を選びがちだが、現場に足を運んで実際に使ってみると、使い勝手を含めて実態に即した判断ができる。

同社は今後も外国人材を含め、優れた人材の確保・育成に取り組む。最近始めたドローンによる劣化診断では、ドローンの指導員も雇い入れた。

「お客さまに信頼される仕事をする」（悟代表）ため、今も新しいアイデアが生まれている。